

国文学研究資料館報

第51号
平成10年9月

ネイミング 上野洋三

三十歳を過ぎてから運転を覚えたので、今もクルマが好きである。はじめの頃に乗っていたのは、ピートル型のフォルクス・ワーゲンで、シルバークレイのメタリック塗装。ジュリー（沢田研二）が

一番輝いていた頃の或る種の風格に通う所があったから。大いに気に入って、群馬・新潟から長崎・熊本まで、各地の訪書にもこれ出かけた。

いま乗っているのはホンダの小さな車だが、ジョディと名前をつけてある。同じ車のCFにジョディ・フォスターが出ていたからで、「羊たちの沈黙」などのこの人の名前は、同僚の「ロバート・キャンベル」さんとともに、現存の外国人の名前で即座に思い出せる数

少ない例である。このクルマも割に気に入っていて、現在も運転席に坐って、ジョディと呼ぶと、心が浮き浮きしてくる。

この春、国文学研究資料館の整理閲覧部へ転職するというと、友人の一人が心配して言った。

「資料館へ行って変な所へ変な名前をつけなざるな。それから整理閲覧部というのは、集められた書物を整理シテ、来館者に閲覧シテイタダクのが仕事です。くれぐれ

も整理サレタものを閲覧スルのだからと心得違いをせぬように」整理整頓は幼少の頃から好きだった。小学校の図書室の本を、誰もいないときに、全部きれいに並べ直して置いたところ、どこかで気づいた先生が、廊下でそつと呼びとめて、小さな声でほめてくれ

目次	1
ネイミング 上野洋三	1
文献資料部第四文献資料室の創設	2
文献資料部事業報告 新藤嶋三	3
研究情報部事業報告 立川美彦	5
整理閲覧部事業報告 上野洋三	8
公開講演会のお知らせ	9
盛報	10
第二十二回国際日本文学研究集会	11
文庫紹介 28	11
評議員等名簿	12
第四回シンポジウム「コンピュータ国文学」利用者へのお知らせ	14
外部評価委員会要旨	16
人事異動	16
平成10年度秋季学会	17
	18

た。閲覧室の本、ありがと。

だが、「整理閲覧部」という名称は、率直に言って矛盾している。 「整理」と「閲覧」の主語が異なるのではないか。友人の心配ももつともだ。わたくしは、つい心得違いをしたくなる誘惑にかられる。それに、耳で聴いても「サーレツランプ（斉列乱舞）」と聞こえて甚だ響きが悪い。そこをしっかりと発音しようとする、舌をかみそうになる。こんなぶさいくな名前を誰が考えたのだろう。わたくしは、ついジョディ風の愛称を考えたくなる誘惑にかられる。

部の名称に限らない。部内の各係の名称も、はなはだわかりにくい。だから覚えにくい。そしてここが大変なのだが、業務の内容を適確に示していない場合が多い。職員に訊くと、自分たちもそう思う、という。ある係などは、新設された折には別の名称も候補にあがっていたのだが、いつの間にか

らこうなりました、と応える。部の名称は、展示会や講演会をも開く業務の内容からいっても、「整理公開部」などのような簡単に耳に入りやすいものに変えるべきだし、各係の名称も実態をよく表すもののほうが、能率的で親切ではなからうか。これではヤル気も行き場を見失うのではないか。

ことのついでに、あえてヨソの名称にも触れておく。館全体がすでに「研究資料館」であるのに、「文献資料部」「研究情報部」とあるのは、相互に効果半減になっている。これも成立の当初には、相應の経緯もあつたのだろうけれど「文献資料部」に並行して「映像資料部」「考古資料部」があるのなら、理由もあるだろうが、そうではないのだから、むしろ活動の実態に即して「調査収集部」とでもした方が、よほど風通しがよい。

一番混乱させられるのが「研究情報」部である。あまりに茫洋と

しているこの名称は、この部がどのような業務・活動を担当しているのか、ほとんど何も表現していない。部内の各室の名称も、外からは全く不可解である。

おまけに管理部に「情報処理係」があり、研究情報部に「情報処理室」があり、当整理閲覧部に「情報サービス室」のもと「情報管理係」「情報整備係」「情報サービス係」があり、史料館には「情報閲覧室」がある。全員を集めて相互の「情報」認識の異同を訊いてみたいほどだ。

「資料館」の中に「史料館」が存在する奇怪さ（これは視覚障害者に対する差別ではないのか）をも含めて、「わたしって誰？」と一度確かめ直す所から出発した方が、この先を考える早道ではなからうか。

大学院生の受入れ

国文学研究資料館では、当館での研究指導を希望する大学院生を特別共同利用研究員として受入れています。詳細は共同利用係までお問合せください。（〇三―三七八五―七 一三―内二一〇）

文献資料部第四文献資料室の創設

従来、文献資料部では、中古から中世、近世までの資料を調査と収集の対象としてきた。例外的に、明治期の板本などを視野に入れることもあったが、部の組織も教官の陣容も、古典の三つの時代を反映させたものであった。本年度より、古典という基本の上に、明治時代の文献を新たに扱う「第四文献資料室」が創設されることとなった。歳月とともに進みゆく明治文献の劣化、明治文学そのものの「古典化」を考えての、時宜を得た展開と言えるであろう。

古典同様、明治期の文献資料の書誌調査を全国に行い、原本と複写による文献を収集するという、二本柱から業務は成り立つ。担当は、今年度の高知大学から転任した谷川恵一教授と、ロバート キャンベル助教授（昨年まで当館整理閲覧部）の二人に、今年度は非常勤研究員として木戸雄一さんを迎えて出帆した。

現代に一步近づいたところで、残る資料が豊富の上に出版・流

通の情報も充実している明治時代。しかし作品の一つ一つが実際にどこに伝わり、その書名、著者名など、基本的な書誌事項の典拠が何かと振り返ったとき、むしろ江戸時代の方が見えやすく、近いように感じられることもある。「国書総目録」未だ及ばず、一方明治刊本の印刷、装丁、版権、流通にいたる書誌学のイロハも、画然と定まっていないのが現状である。調査を本格的に立ち上げるために、今年度は主として、(一) 調査すべき資料は何か(時代下限の設定、「文学資料」の範疇などをめぐって等)、(二) その資料がどこにあるか(所在情報)、(三) 文献のどの部分を、どう調査するか(調査方法)、(四) 蓄積される調査成果をどのように整理し、研究者に公開してゆくか、の四点に絞って、模索している最中である。

古典籍は、写本・刊本という二分法で大別されるが、明治本は写・刊のほかに、和装と洋装、単行本と逐次刊行物によって様

態が大きく変わり、書誌調査も三つ巴に絡み合うこれらの差異をきちんと捉えるように組み立てなければならぬ。刊本でも、たとえば金属活字だと十年代に紙型が導入されるその前後から、本文の有りがたが違わずである。異版を見抜く的確な書誌情報が必要されるであろう。活字に擬せられた整版本、整版に見まがええられる銅版本、結び綴じのボール表紙、和装活字のチリメン本等々と、製版と装丁の様式がめまぐるしく交差するのは明治前半である。

従来のカードで対応できない部分が多く、明治資料専用の調査カードとマニュアルを作ることとした。紙に記すものとは別に、調査員が原本を手元に入力できる簡便な電子版調査カードを、先ずは市販ソフトで操作しやすい形で用意しようと考えている。デジタル・カメラで表紙や奥付などを撮ってカードといっしょに蓄積すれば、諸本の比較研究に役立つこともあろう。

(文責・キャンベル)

文献資料部事業報告

新藤 協三

平成十年度の調査収集事業は、五月二十日の収集計画委員会の議を経て、五月二十八日の国文学文献資料調査委員会（総会）で具体的に打合せを行ない、作業は既にかなり進捗している。

今年度は諸般の事情によって、

これまで午前中から始めていた総会を午後から開始することにし、そのため、昨年まで行なっていた客員教授による講演と、書誌学にかかわるシンポジウムは割愛せざるを得なかったが、調査・収集に関する活発な討議がなされ、午後開始という初めての試みも実質的成果を収めた。なお、この方式は今後暫く継承する見通しである。

当館の調査収集事業は調査員の方々の協力を得て、年間目標調査七千点以上、収集五千点以上を目指して行なわれるが、現在までに調査点数二十四万四千五百点余、収集点数十四万五千六百点余に及んでいる。昨年度から設置された第四文献資料室は、今年度教授・

助教授二名の構成となり、近代分野の資料の調査収集を担当しているが、目下のところは、幕末から明治期にわたる原資料の購入による収集を専ら手がけ、また、明治期資料の調査方法の確立を目指し、最終的検討に入っている。

平成九年度国文学文献資料調査・収集の概況

一、調査

平成九年度は、本年三月末までに一九箇所の所蔵資料八四八五点を調査した。

北海道・東北地区（順不同・敬称略、一部省略。以下同じ）

北海道教育大学附属図書館（札幌校）・伊達市開拓記念館・八戸市立図書館・弘前市立図書館・東北大学附属図書館（狩野文庫）・仙台市民図書館・仙台市博物館・山寺芭蕉記念館・酒田市光丘文庫・米沢市立米沢図書館

関東地区

茨城大学附属図書館・筑波大学附属図書館・観世文庫・華蔵寺・東

京芸術大学附属図書館（脇本文庫）・国立国会図書館・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所・三井文庫・東京大学文学部国文学研究室・東洋文庫・東京都立中央図書館（東京誌料）・東京都立中央図書館（特別買上文庫）・尊経閣文庫・横浜開港資料館

京芸文庫・陽明文庫・葎庵文庫・百々御所文庫・瑞光寺・京都市某家・天理大学附属天理図書館・郡山城史跡柳沢文庫保存会・宝山寺・大阪天満宮御文庫・大阪女子大学附属図書館・田辺市立図書館・南方熊楠邸保存顕彰会・神戸女子大学附属図書館・青山会

中部地区

新潟大学附属図書館（佐野文庫）・糸魚川市歴史民俗資料館・柏崎市立図書館・黒川村立公民館・佐渡某家（鶴飼文庫）・金沢大学附属図書館・石川県立歴史博物館・福井市立図書館（松平文庫）・小浜市立図書館・山梨県立図書館・上田市立図書館（花月文庫）・市立小諸図書館・諏訪市図書館・磐田市立図書館・浜松市立賀茂真淵記念館・三島市郷土館（勝俣文庫）・名古屋大学附属図書館（岡谷文庫）・名古屋市蓬左

鳥取県立図書館・大鼓谷稲成神社・岡山大学附属図書館（池田文庫）・ノートルダム清心女子大学附属図書館・広島大学附属図書館・光藤益子・三原市立図書館・専徳寺・山口大学附属図書館（樓息堂文庫）・岩国徴古館・西円寺・萩市立図書館・香川大学附属図書館（神原文庫）・鎌田共済会図書館・総本山善通寺・愛媛県立図書館・大州市立図書館・徳島県立図書館（森文庫）・丈六寺

立図書館・都城市立図書館・名瀬市立奄美博物館・琉球大学附属図書館

海外

ブルベラー家・フランクフルト市立芸術工芸美術館・ライプス博物館・リートベルク博物館・チューリッヒ大学

右は海外科研費による調査

二、収集

本年三月末までに左記の五箇所所の所蔵資料四四三五点を収集した。

北海道・東北地区

八戸市立図書館・弘前市立図書館・盛岡市中央公民館・仙岳院・酒田市立光丘文庫・初瀬川文庫・松翠文庫

関東地区

茨城県立歴史館・筑波大学附属図書館・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所(鴻山文庫)・東京大学文学部宗教学研究室・東洋文庫・東京都立中央図書館(東京誌料)・尊経閣文庫・金子金治郎

中部地区

新潟大学附属図書館(佐野文庫)・糸魚川市歴史民俗資料館・福井市立図書館(松平文庫)・長野県短期大学附属図書館・上田市

立図書館(花月文庫)・上田市立図書館(花春文庫)・諏訪市図書館・浜松市立賀茂真淵記念館・名古屋市鶴舞中央図書館・名古屋市蓬左文庫・名古屋大学附属図書館(神宮皇学館文庫)・愛知県立大学附属図書館・中央大学図書館・大須文庫・名古屋博物館・新城ふるさと情報館(牧野文庫)・西尾市教育委員会(西尾市岩瀬文庫)

近畿地区

正教蔵文庫・京都府立総合資料館・蘆庵文庫・百々御所文庫・郡山城史跡柳沢文庫保存会・南方熊楠邸保存顕彰会・南方熊楠記念館・青山会

中国・四国地区

ノートルダム清心女子大学附属図書館・友久武文・灰谷純一郎・藤川柳太郎・三原市立図書館・岩国徽古館・益田家・総本山善通寺・四国大学附属図書館(凌霄文庫)・高知県立図書館(山内文庫)

九州地区

祐徳稲荷神社(中川文庫等)、白杵市立白杵図書館・杵築市立図書館

海外

カリフォルニア大学パークレー校

平成十年度調査収集計画

本年度は、調査一二四箇所(海外を含む)九一五五点、収集六二箇所(同)五五四〇点を目標として、既に調査収集を進めている。その内、石川県立図書館(金沢)を始めとする一二箇所の新規調査、磐田市立図書館など三箇所の新規収集が含まれている。

海外資料の調査・収集

本年度は、ドイツの州立ベルリン図書館・州立ミュンヘン図書館・ブルベラー家(ケルン)、及びイタリアのヴァチカン図書館・サレジオ大学附属図書館(ローマ)等の、海外科研費による調査が予定され、カリフォルニア大学パークレー校東アジア図書館本(継続)の外、昨年度実施できなかった新ルーバン大学人文科学系図書館本の収集が予定されている。

第四文献資料室

明治以降の近代分野の資料の調査、収集を担当する第四文献資料室が昨年度から設置され、当初は助教授一名のみであったが、今年度から教授・助教授各一名の構成となり、実質的業務を遂行している。

第五文献資料室

本年度は客員教授として放送大

学野山嘉正教授が着任した。併任助教授は、前記は島根大学文学部田中則雄助教授、後期は大阪教育大学教育学部小野恭助助教授。それぞれの専門分野を生かして、文献資料部の書誌学的研究や調査収集業務に参加していただいている。

国際研究室

本年三月まで、フランス国立高等研究院ハルトムート・ロータモンド教授が平成九年度客員教授として着任、本年度は、ボン大学ベーター・パンツァー教授が七月十三日(平成十一年三月三十一日)の期間着任し、「独語圏と日本」の研究テーマの下に研究に従事している。この外、科学研究費による短期招聘研究者として、コレージュ・ド・フランスのフレデリック・ジラルール教授が七月一日(八月の間、パリ第七大学のジャン・ジャック・チュディン教授が九月十六日(十月三日)の間、それぞれ来館した。

その他

調査員地区会議は、中部地区は十月に名古屋で、九州地区は十一月に熊本で、それぞれ開催を予定している。

研究情報部事業報告

立川美彦

本年度も人事異動があった。昨年度から設置された第四文献資料室に、四月より高知大学人文学部から谷川恵一教授が転入し、昨年十月から整理閲覧部との併任だったロバート・キャンベル助教授が文献資料部専任となり、第四文献資料室は教授・助教授の二名となった。また、鈴木淳第二文献資料室助教授が整理閲覧部教授に昇任した後を承けて、山下則子助教授が、辻本裕成第一文献資料室助手が南山大学助教授に転じた後を承けて、久保木秀夫助手がそれぞれ採用された。非常勤研究員として木戸雄一氏（筑波大学大学院博士課程単位修得）が、リサーチ・アシスタントとして二又淳氏（早稲田大学大学院在籍）と山本まり子氏（日本大学大学院在籍）が、それぞれ新規に採用になった外、研究支援推進員は昨年度から継続して御正牧子さんが採用され、加藤多恵事務補佐員が退職した後に、桜井律子さんが入り、稲垣菜緒さんと二人で業務にあたっている。

「調査研究報告」第十九号が六月三十日付けで刊行された。

（文献資料部長）

情報資料室

第二十一回国際日本文学研究会を、十一月十三日、十四日に開催した。参加者数は、昨年度より若干減少し、九一名（内、外国人三三名）であった。

本年度は、二日目を小特集とし「境界と日本文学—ジャンルの交流—」のテーマをもうけた。このテーマによるセッション討議の間をとったが、それぞれの研究発表への質問が多く、まとまった話し合いができるところまでには至らず、今後課題を残した。招待研究発表者として、ロンドン大学のタイモン・スクリーチ助教授が招聘された。

公開講演は、「本文・注釈・絵」の表題で九州大学今西祐一郎教授、「和歌から説話を見る—唱導史の観点を中心にして—」の表題でフランス国立高等研究院ハルトムー・ロータモンド教授が行った。この集会の記録は、本年十月に発刊の予定で、現在編集がすすめ

られている。

新聞情報掲載の国文学関係記事の収集は、例年どおり順調な進捗をみた。館報も例年どおり二回の発行を行った。

情報分析室

情報分析室の最大の業務である「国文学年鑑」平成八年版の編集を完了し、予定通り平成一〇年三月末に刊行した。

主要項目の各収載件数はほぼ次のとおりである。

- ◆雑誌・紀要・論文集所載論文件数 一二三六六
- ◆新聞所載論文件数 二七
- ◆学会一覧数 四一
- ◆学会研究発表一覧数 七四三
- ◆新指定文化財数 一二
- ◆平成八年度文部省科学研究費等交付数 四七〇
- ◆受賞一覧数 一〇四
- ◆計報 三九
- ◆単行本一覧数 二五五四
- ◆収載雑誌紀要一覧数 一二〇六
- ◆翻刻複製一覧数 一〇五三

◆執筆者一覧数

八八二九

ページ数は前年度平成七年版より一三ページ増の八六一ページ、販売価格は一一三三〇円から一一五五〇円と若干増大した。

年鑑作成にかかわる重要課題として、過去三年の本報告であげたように、平成十二年度中に予定されている大型計算機撤廃にあわせてダウンサイジング計画に対応すべく、従来一年間のずれを伴って実施されていた年鑑編集業務と国文学論文目録データベース作成の業務を一本化し、データ初期入力からコンピュータ上で処理するための同時作成システムの開発を進めている。昨年に引き続き、分析室・データベース室・処理室・整理閲覧部と共同で基本システムの策定を行っており、来十一年度中には新システムを完成させ、十二年度には実験に入り、翌年から新システムによる公開開始の予定である。

データベース室

現在のデータベース室の事業は四本柱で成り立っている。一つは室の創設以来の主事業である国文学論文目録データベースのデータ追加搭載、もう一つは平成三年度

よりデータベースの構築を進めている古典人名データベースの推進、さらにもう一つはデータベースの利用サービスを応援する事業、最後に、平成八年度よりスタートした原本テキストデータベース事業である。

国文学論文目録データベースとしては、平成九年度は、新規一年分として平成七年の分（レコード件数一二、四八九）、遡及として昭和三十八年から昭和四十二年（同二二、六二八件）の五年分を追加搭載し、その結果、平成十年四月一日からのデータベース検索にかかる総件数は二四〇、〇〇〇件をわずかながら超えた。

古典人名データベースは、データ件数が次第に大きく蓄積されてきたことから、公開に向けての具体的な検討とセットで仕上げを確認する必要がある、詰め難しさと格闘しながら、データベースを進めている。データとしては公卿補任の他に尊卑分派等の系図からのデータ抽出を進めている。

データベースサービス業務は、利用者が次第に増えつつあり、利用者層が拡張している。申請に関する質問も中学校・高等学校の先

生からの問い合わせが相当あり、中・高の教育にパソコンが浸透してきていることと並行した現象のように思われる。

原本テキストデータベース事業は、新しく吾妻鏡のデータベースが委員会において決定し、これで、総監修の段階にある二十一代集データベース、監修員による監修段階にある絵入源氏物語、初期入力段階の吾妻鏡と、三本のデータベースが並行して進められることとなった。二十一代集データベースは、当然のことながら各集ごとに異なる事情が持ち込まれ、データの大きさとも相まって予定をやや超える取り組みとなったが、他は、スケジュール通りに進んでいる。

十二月に開催した第三回の「シンポジウムコンピュータ国文学」については、前号の館報に記述したので繰り返さない。

情報処理室
情報処理システムの運用・運転を除く平成九年度の事業は、以下のように実施した。

(1) サービスの向上
館内の情報コンセンツの拡充を図った。また、当館教職員用に館

外からのPPP (Point to Point Protocol) 接続によるサービスを開始した。

(2) 業務システムの運用
研究論文目録、本文データベースなどの運用機能拡充などを行い、平常通りの運転を実施した。また、資料管理、OPAC、文字セット管理システムなども平常に稼働している。

(3) 新規システム開発
本文データベース、SGML (Standard Generalized Markup Language) へのデータベース変換などの研究開発を引き続き行い、実験用システムを実現した。

「マイクロ資料目録データベース」、「和古書目録データベース」、「国文学研究画像データベース」を一体化したマルチメディアデータベースと、古典本文データベースの二つのデータベースシステムが試行のレベルに達したことが特筆される。

(4) 国際接続
前年度に引き続き、英国、米国、ドイツ、カナダなどから当館データベースへの国際接続実験を行った。また、各国におけるネットワークの現状調査を行った。

カルフォルニア大学サンディエゴ校を中心としたPacific Rim Digital Library Alliance (PRD LA) に参加し、参加各国の大学図書館との情報交換を開始した。

(5) 館外との協力
人文系共同利用機関情報システム連絡会において、各機関の情報処理システムの現状、WWW情報資源の公開及びホームページなどについて各機関との情報交換を行った。更に、複数機関との間でデータベースの相互検索についての具体的な検討を開始した。

(6) システム運用管理体制
定員削減に伴い、次年度以降の運用管理体制及び業務の見直しを行った。同時に、分散化に対応した新しい管理体制への移行にも着手した。

情報メディア室

情報メディア室は、国文学研究のためのマルチメディア型統合処理の研究を目的に平成七年度に新設された。インターネットを活用して、自分の研究室や書齋に居ながらにして目録情報を検索したり、原本資料の電子化画像や本文資料の電子化テキストを見たり、関連する資料を次々と辿ったりができ

る「電子資料館システム」の研究
と、電子資料館で提供するコンテ
ントを構築するためのオブジェク
ト指向型データベースシステムの
研究を進めている。

(1) 電子資料館のプロトタイプ
本システムはいわゆる電子図書

館システムの一分野であるが、国
文学・国史学を対象とするには独
自技術の開発も必要である。特に
不定型で多種多様な情報の扱い、
膨大な量の画像データベースの扱
い、目録情報・原本画像・本文テ
キスト間の相互リンク付けなどを
研究している。この中心となるの
は、SGMLによる構造化テキスト
技術、フルテキストを任意語で検
索できる全文検索エンジン技術、
ネットワーク経由で検索閲覧サー
ビスを行うインターネットWorld
Wide Web (WWW) 技術である。
本年度は、全文検索エンジンを
用いて膨大な本文データベースか
ら任意語を高速に検索表示する仕
組みや、テキストと原本画像を買
単位で対応付けを行い、テキスト
と原本画像の間を自由に行き来し
ながら検索閲覧する仕組みなどを
実現した。

本電子資料館実験は、著作権等

の問題からその一部内容(二十一
代集、国書基本データベース、源
氏物語、連歌データベース等)を
当館ホームページ (<http://www.nijia.jp>) の中の「電子資料館
実験」で公開しているが、好評を
得ている。

(2) オブジェクト指向型データ
ベースシステムの開発

「電子資料館」ととって一番重
要なのはそこでサービスする内容
(コンテンツ) であるので、コン
テンツ作成の容易化が重要である。
従来型データベースでは、国文学
の不定型情報は扱いにくい。そこ
で、複雑に関係しあつた情報を簡
潔に記録し検索できるオブジェク
ト指向型の新データベースシステ
ムの開発を進めている。本システ
ムは、国書総目録及び古典籍総合
目録の内容を含んでおり、著者情
報、作品情報、書誌情報を自由自
在に検索閲覧・修正が可能で、ま
た内容を電子資料館でも公開でき
るようになってい

るようになっている。

研究開発室

(1) 昨年度に引き続き、平安後
期歌書のデータベース開発を進め
た。昨年度来の藤原清輔関連の作
品七種に加えて、九年度は和歌童

歌抄および六百番歌合のデータベ
ース化に着手した。本文領域と並
行して、全文を仮名に開く標準領
域、諸本の異同を採取した注記領
域、加えて関連歌書の参照事項を
付したメモ領域を構築するもので
ある。その中間報告をかねて、十

二月に行われたシンポジウムコン
ピュータ国文学に、後藤客員教授
が「歌書データベースの可能性」
と題して講演した。典義抄・初学
抄所収の歌語と清輔・源俊賴実作
品における使用頻度比較、清輔判
歌合判詞中の難義語の読解試案な
ど、形成途上のデータベースを利
用した内容となつている。九年度
はこのデータベース構築と並行し
て歌書および歌語の個別研究を行
い、黒田彰子「漢文圏和歌説話の
伝流―王昭君の場合―」、浅田徹
「色葉和難集所引散佚歌学書考」
の題による研究会を開いた。

(2) 当室併任の助教授として荒
木浩大阪大学文学部助教授が着任
し、説話データベース化に関する
研究開発会議を發起し、説話デー
タベース化の前提となる理論的根
拠についてさまざまな考察を行っ
た。八月五日の第一回研究会では
神山重彦愛知学院大学助教授によ

る「物語要素」という概念を中心
とした研究発表をめぐって討議が
なされ、九月十六日の第二回研究
会では川森博司大阪大学文学部講
師による昔話のインデックス研究
をめぐる報告と昔話におけるタイ
プ(話型)とモチーフの定義やそ
の記述の実際に関する発表、田村

憲治愛媛大学法文学部教授による
「説話文学索引」改訂事業の諸問
題、具体的には説話からのデータ
切り出し、カードの処理、出版に
当たつての問題等が提示され、討議
された。他にメンバーとして森正
人熊本大学文学部教授が参加され
た。研究会議の成果を踏まえて、
十二月に行われたシンポジウムコ
ンピュータ国文学に、荒木助教授
が「説話データベース化について
の課題と展望」と題する講演を行
った。

*

平成九年度後半に、八年度の当
館「外部評価」に続き、情報シス
テムに重点を置いた第二次「外部
評価」が実施された。全館的取組
みとなつた会議資料準備は、館の
情報システムの現状に関する共通
認識の更新にも役立ったと思う。

(研究情報部長)

整理閲覧部事業報告

上野 洋 三

平成九年度の当部の業務（資料の受入、整理、保存、利用サービス及び参考業務、公開講演会の開催、展示等）は、次のとおりであった。

情報サービス室

①資料の受入

資料受入数についてみると、マイクロ資料は、ロールフィルム一、一九三リール、紙焼写真本一、五八八冊、図書は、四、〇四五冊、逐次刊行物は、三、七六六冊であった。その結果、平成九年度末での全蔵書数は、表のとおりとなった。

②マイクロ資料の整理

マイクロ資料五、〇七九点（三三文献）について整理し、平成八年度版データを作成した。これにより、累積冊目数は一五九、一六〇点に達した。

③図書資料の整理

活字本・影印本は二、八二五冊を整理するとともに、遡及入力作業を引き続き行い、四、二七九冊

を入力した。その結果、活字本・影印本の蔵書数の約四五%が当館OPAC及び学術情報センター目録システムから検索可能となった。なお、写本・版本は三九一冊を整理した。

④逐次刊行物の整理

一、七四八タイトルの受入を行い、所蔵タイトルは三、八八二誌となった。また、学術情報センターの「学術雑誌総合目録欧文編」へのデータ提出のため、同センター目録システムへ一六三タイトルの洋雑誌のデータ入力作業を行った。

⑤古典籍総合目録作成事業

古典籍の総合所在目録データベースを構築し公開することをめざし作業を継続している。

平成九年度は、約一一、〇〇〇件の書誌入力データを作成するとともに、データベース上の九、〇〇〇件の書誌データについて、著作及び著者を決定し、典拠ファイルとの関連付けを行った。

システム面では、現在汎用機上で運用されている業務システムの分散化を図り、データベースの多様な利用を可能にするため、研究情報部の協力により新システムの開発に着手した。

また、古典籍総合目録データベースの一環として蓄積してきた古典作品典拠ファイルについては、「国書総目録」から著作データを一括入力する作業が終了し、データの総点検に取りかかった。同時に研究情報部において、ホームページ上から、典拠ファイルのデータ検索が可能な「国書基本データベース著作編」の実験公開を開始した。

⑥閲覧業務

年間開室日数は、二二六日、来館利用者数は、八、九四二人（一日当たり四〇人）であった。平成九年度から資料利用カードの有効期限を四年とし、平成八年度までの登録者も新規登録をしたため、登録者数は三、三三七人（一日当たり一五人）となった。閉架資料の閲覧点数は、二二三、九三〇点（一日当たり一〇六点）であった。また、文献複写は、二八、九二九件（一日当たり二二八件）で、

所蔵資料統計

（平成10年3月末現在）

資料種別	点数	冊（リール）数	
マイクロ資料	マイクロフィルム	139,848点	30,710リール
	マイクロフィッシュ	16,000点	55,106枚
	紙焼写真本	—	63,648冊
図書（古書及び新刊書）	38,421点	102,422冊	
逐次刊行物	3,882誌	132,102冊	
寄託資料	964点	4,313冊	

電子複写（含むリーダープリンター）二五八、〇七七枚、紙焼写真一五、一九七枚、ポジフィルム七、〇九六コマを作製した。

⑦相互利用

郵送による文献複写・相互貸借の受付は、複写二、四二六件、貸出三一件九五冊であった。他機関への依頼は、複写一四〇件であっ

た。

⑧資料の保存

当館所蔵原本(写本・版本)のマイクロ化事業は、約一四、〇〇〇コマ、六九点の撮影を実施した。保存用ネガフィルムの外部保管委託は、平成七年度収集分ほか一、一三六リールを追加委託し、総計二六、七七九リールとなった。また、和古書の帙を七十六個作成した。

なお、例年どおり、四月末から五月初めにかけて資料のくん蒸年度末には蔵書点検を実施した。

参考室

春期の特別展は、当館の所蔵となった「宗安小歌集」を中心に「よみがえる宗安小歌集―中世歌謡の世界―」のテーマで開催、同様のテーマの公開講演会を開催した。

また、秋期の公開講演会(第四十九回)は、地方講演会としては最も隔遠の地・沖縄で開催することができた。テーマは「大和から吹く風―沖縄文学の近世と近代―」で、沖縄タイムスホールで開催した。

公開講演会の講演録である「古典講演シリーズ」は、第二巻とし

て平成六年度と七年度の公開講演会を取りまとめた「詩人杉浦梅潭とその時代」(臨川書店)を刊行した。

①参考業務

日常業務として、参考質問の受付・回答に従事した。

②公開講演会

国文学の普及業務として、次のとおり公開講演会を開催した。

- ・第四十七回(五月十六日、当館)「田植草紙歌謡の性格―研究史にそって―」友久武文(広島文教女子大学教授)、「琉歌の世界」池宮正治(琉球大学教授)、「宗安小歌集実見―研究の再構築をめざして―」飯島一彦(獨協大学助教授)
- ・第四十八回(六月二十七日、当館)「家業と稼業―人斬り浅右エ門とその弟子たち―」氏家幹人(内閣文庫図書専門職)、「江戸歌舞伎の宣伝広告―ポスターとしての辻番付―」赤間亮(立命館大学助教授)、「俳諧師の経済生活」加藤定彦(立教大学教授)
- ・第四十九回(十二月六日、沖縄タイムスホール)「詩人・原忠順と琉球処分」

パート・キャンベル(整理閲覧部助教授)、「琉球神道記の説話

世界」小峯和明(立教大学教授)、「近世沖縄の和歌」嘉手刈千鶴

子(沖縄国際大学教授)

③展 示

特別展示、常設展示は、次のとおりであった。

○特別展示

・春期特別展「よみがえる宗安小歌集―中世歌謡の世界―」(五月十二日～二十三日)

月十二日～二十三日)

○常設展示

・第六十七回「和書のさまざま」(六月九日～九月五日)

・第六十八回「新収明治の本」(九月十六日～十二月十九日)

・第六十九回「好色一代男」への道―図像篇―(一月二十六日～五月八日)

(整理閲覧部長)

公開講演会のお知らせ

次の公開講演会は、本年十一月京都府宇治市に新しく開館する源氏物語ミュージアムと共催で、「源氏物語講演会」を行います。宇治は「源氏物語」宇治十帖の舞台の地であり、このミュージアムは、その地に「源氏物語」をテーマとして創設される博物館です。その開館直後の記念行事の意味も込め、最先端の研究成果をも発表する場として開催したいと考えています。一般市民の方々はもちろん、国文学・歴史学の研究者の方々も多数ご来場くださいますよう、お願い申し上げます。

日時

平成十年十二月十九日(土)

午後一時半～五時

会場

宇治公民館

(宇治市宇治里尻七一―九)

講師及び演題

「源氏物語の本文とは何か」

大阪大学文学部教授 伊井春樹氏

「宇治の中君―紫式部の人物造型―」

鶴見大学名誉教授 岩佐美代子氏

定員は二五〇名ですので、往復はがきによる事前予約制(源氏物語ミュージアム宛)とします。多数の方々のご来場をお待ちしております。

彙報

委員会日誌

平成10年

3月2日 古典籍総合目録委員
会

3月5日 図書選定小委員会

3月13日 貴重書指定小委員会

4月24日 原本テキストデー
タ

ベース監修員会議

(第一回)

4月28日 大学院教育協力委員
会

(第一回)

5月7日 情報システム専門委
員会

図書資料委員会

5月19日 図書資料委員会

(第一回)

5月20日 国文学文献資料収集
計画委員会

(第一回)

5月22日 原本テキストデー
タ

ベース委員会

(第一回)

5月28日 国文学文献資料調査
員会議

共同研究委員会

6月23日 共同研究委員会

(第一回)

7月9日 図書選定小委員会

7月16日 企画委員会

7月16日 将来構想委員会
7月21日 文献目録委員会
8月7日 国際日本文学研究集
会委員会
(第一回)

(第一回)

運営協議委員会の開催について

平成九年度第四回運営協議員
会が平成十年二月二十四日(火)に
開催され、管理運営の概況、平成
十年度予算内示及び科学研究費補
助金、平成十年度事業計画、平成
十年度共同研究計画について協議
が行われた。

本年度第一回運営協議員会が平
成十年六月三十日(火)に開催さ
れ、国文学研究資料館名譽教授の
候補者、教官人事、管理運営の概
況、平成九年度事業・研究報告、
平成十一年度概算要求について協
議が行われた。

評議員会の開催について

平成九年度第二回評議員会が平
成十年三月三日(火)に開催され、
管理運営の概況、平成十年度予算
内示及び科学研究費補助金、平成
十年度事業計画、平成十年度共同
研究計画について評議が行われた。
本年度第一回評議員会が平成十

年七月二十三日(木)に開催され、

国文学研究資料館名譽教授の承認、
管理運営の概況、平成九年度事
業・研究報告、平成十一年度概算
要求について評議が行われた。

外国出張

安永 尚志

渡航先 イタリア共和国
フランス共和国
連合王国

目的 国文学デジタル資料
館システムの国際共
同協調方式による構
築と利用のための研
究

期 間 平成10年6月1日
平成10年11月30日

松野 陽一

谷川 恵一

ロバート・
キャンベル

渡航先 中華人民共和国

目的 漢籍の目録研究者か
らのレビュー及び討
議

期 間 平成10年6月24日
平成10年6月29日

原 正一郎

渡航先 オランダ王国

海外研修旅行

山崎 誠

渡航先 ベルギー王国

目的 新ルヴァン大学日本
古典籍の悉皆調査及
び目録化

期 間 平成10年6月20日
平成10年7月21日

名譽教授称号授与

国文学研究資料館名譽教授称号授
与規程の規定に基づき、平成十年
七月二十三日付けで、次の方に称
号が授与された。

○森安彦 昭和九年十二月八日生
昭和五十九年四月一日から平成十
年三月三十一日(平成五年八月一
日から史料館長)まで史料館教授
として在職。



第22回国際日本文学研究集会

本年度の国際日本文学研究集会は、十一月十九日(木)二十日(金)の両日、国文学研究資料館で開催される。用語は日本語、参加費千円(公開講演は無料)。参加御希望の方は、はがきに①氏名②住所③職業(所属大学)④専攻を書いて国文学研究資料館「国際日本文学研究集会事務局」あて、十一月六日までに申し込んで下さい。

◆特集テーマ「境界と日本文学」
―日記・手紙の視点から―

◆「研究発表」(座長・今関敏子)
―「伊勢物語」の構想と世界

―「遊仙窟」と「崔致遠伝」
との比較を通して―

◆「研究発表」(座長・小池正胤)
―「井筒」解釈の多義性

―婚姻の形態から―

◆和歌における空間の渦巻と他界への懸け橋

リユドミール・エルマコフ
(岡山大学講師)

◆「研究発表」(座長・小池正胤)

◆境界と縁―連歌師の旅日記「宗長手記」をめぐる―

◆伊達政宗の手紙
小池一行(宮内庁書陵部)

◆王朝女流日記における境と心のバランス
ジョン・ウォレス(カリフォルニア大学パークレイ校客員助教授)

◆「研究発表」(座長・湯沼誠二)
―日露戦争と「陣中詩篇」

◆川端康成の小説の表現
―「決して」を例に―

◆朝鮮学士の日記・紀行文にみる朝鮮通信使の旅
朴賛基(木浦大学校助教授)

◆「公開講演」
境界としての埋甕

―海彼・繩文から万葉歌へ―
山口博(聖徳大学教授)

◆慶長遣欧使節団とアズテク人歴史家の日記にみるその経緯
ペーター・バンツァー
(ボン大学教授)

文庫紹介 28

高知市民図書館 近森文庫

高知市出身の元軍人で近代文学の愛好者であった近森重治氏の蔵書を高知市民図書館が購入して昭和四九年に開設された。蔵書数は約七千点、一万三千冊。戦災によりいったん蔵書を失った近森氏が、戦後ふたたび各地の古書店を通して精力的に集めたものという。明治以降のものが中心で、さまざまな分野の書籍がひろく収められているが、目録はまだ作成されていない。受け入れ時に作られた図書原簿のおおまかな分類によってその内容を示すと、自由民権運動に関連した書籍が約三百冊、郷土誌が約二百五十冊、源氏から江戸戯作までの物語・神史類が約三百冊、歌書が約二百五十冊、俳書が約百冊、音曲・技芸類が約百冊、美術・風俗類が約百冊、新聞・雑誌類が約二百点などとなっている。中でも目をひくのは、約九百冊からなる明治以降の小説・随筆類と約二百冊の近代詩の集書であろう。いわゆる稀覯本の類はあまり含まれていないようだが、紅鷗逍露など名の通った明治の作家の単行本や、「新体詩抄」以降の主要な詩

書がバランスよく揃っており、保存状態も比較的良好なものが多い。また、総数千点に近い明治以降の錦絵があり、美人画・約二百点、芝居絵・約二百点、西南戦争も約三十点などが収められている。なお、これらの蔵書の一部は、高知市立自由民権記念館に貸し出しされ、常設展示されている。

公共図書館でこれだけのまとまったコレクションを保有しているところは稀であり、今後当館と市民図書館とが協力してその調査・整理、および利用にむけたプロジェクトを開始する予定である。

高知市民図書館は市内中心部の高知城前にあり、JR高知駅から市内電車またはバスで約十分、県庁前下車。電話は〇八八八―七五九一―九〇一八。月曜日休館。申し込めば文庫の閲覧は可能だが、写真撮影以外の複写は不可。

(文献資料部 谷川恵二)



評議員

任期 平成10年7月1日〜平成12年6月30日

朝尾直弘 京都橘女子大学文学部教授、京都大学名誉教授

阿部謹也 一橋大学長

阿部充夫 東京国立博物館長

網野善彦

石毛直道 国立民族学博物館長

稲賀敬二 安田女子大学文学部教授、広島大学名誉教授

猪瀬博 学術情報センター所長、東京大学名誉教授

大口勇次郎 お茶の水女子大学文教育学部教授

甲斐睦朗 国立国語研究所長

河合準雄 国際日本文化研究センター所長、京都大学名誉教授

久保田淳 白百合女子大学文学部教授、東京大学名誉教授

興膳宏 京都大学文学部教授

雑賀美枝 ノートルダム清心女子大学長

佐原眞 国立歴史民俗博物館長

竹西寛子 作家・評論家

田中彰 札幌学院大学経済学部教授、北海道大学名誉教授

徳江元正 國學院大学文学部教授

堤精二 お茶の水女子大学名誉教授

蓮實重彦 東京大学長

平岡敏夫 筑波大学名誉教授

運営協議員

任期 平成10年8月1日〜平成12年7月31日

〔館外〕

久保木哲夫 都留文科大学長

後藤祥子 日本女子大学文学部教授

外村南都子 白百合女子大学文学部教授

名和修 (財) 陽明文庫長

延廣眞治 東京大学大学院総合文化研究科教授

野山嘉正 放送大学教授

日野龍夫 京都大学大学院文学研究科教授

藤井讓治 京都大学大学院文学研究科教授

宮地正人 東京大学史料編纂所画像史料解析センター長

吉原健一郎 成城大学文学部教授

共同研究委員会委員

任期 平成9年4月1日〜平成11年3月31日

稲賀敬二 安田女子大学文学部教授

野村精一 実践女子大学文学部教授

富士昭雄 駒澤大学文学部教授

松浦友久 早稲田大学文学部教授

松尾華江 相山女子大学人間関係学部教授

三木紀人 お茶の水女子大学文教育学部教授

国文学文献資料収集計画委員会委員

任期 平成9年4月1日〜平成11年3月31日

金田弘 國學院大学文学部教授

雲英末雄 早稲田大学文学部教授

柴田光彦 跡見学園女子大学文学部教授

鶴崎裕雄 帝塚山学院短期大学長

納富常天 鶴見大学文学部教授

任期 平成10年4月1日〜平成12年3月31日

井上敏幸 佐賀大学文化教育学部教授

狩野博幸 京都国立博物館学芸課美術室長

沢井耐三 愛知大学文学部教授

白石克 慶應義塾大学三田メディアアセンダー調査役

三村晃功 光華女子大学文学部教授

国際日本文学研究会委員会委員

任期 平成10年4月1日〜平成12年3月31日

今関敏子 帝塚山学院大学文学部教授

小池正胤 東京学芸大学名誉教授

湯沼誠二 北海道教育大学教育学部若見沢校教授

中島国彦 早稲田大学文学部教授

松平進 甲南女子大学文学部教授

山口博 聖徳大学人文学部教授

文献目録委員会委員

任期 平成10年4月1日〜平成12年3月31日

安藤修平 富山大学教育学部教授

安藤宏 東京大学大学院人文社会科学系研究科助教授

石川了 大妻女子大学文学部教授

遠藤宏 成蹊大学文学部教授

菊地仁 山形大学人文学部教授

木越治 金沢大学文学部助教授

後藤祥子 日本女子大学文学部教授

鈴木泰 お茶の水女子大学文教育学部教授

高橋博史 白百合女子大学文学部助教授

前田雅之 東京家政学院大学人文学部助教授

松村友視 慶應義塾大学文学部教授

安田尚道 青山学院大学文学部教授

原本テキストデータベース委員会委員

任期 平成10年4月1日〜平成12年3月31日

青木周平 國學院大学文学部教授

池上洵一 神戸大学文学部教授

今西裕一郎 九州大学文学部教授

岩下武彦 中央大学文学部教授

小池一行 宮内庁書陵部首席研究官

野村精一 実践女子大学文学部教授

中山右尚 鹿兒島大学教育学部教授

情報システム委員会委員

任期 平成10年4月1日〜平成12年3月31日

石塚英弘 図書館情報大学図書館情報学部教授

稲岡耕二 上智大学文学部教授
 根岸正光 学術情報センター教授
 杉田繁治 国立民族学博物館第5研究部教授
 照井武彦 国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授
 長崎健 中央大学文学部教授
 水村眞 日本女子大学文学部教授
 中山雅哉 東京大学大型計算機センター助教
 原田公子 国立国会図書館総務部副部長
 星野聰 京都大学名誉教授
 村上學 名古屋大学文学部教授
古典籍総合目録委員会委員
 任期 平成9年4月1日～平成11年3月31日
 加美宏 同志社大学文学部教授
 戸澤幾子 国立国会図書館古典部古典整理長
 雨森弘行 東京大学附属図書館事務部長
 柴田光彦 跡見学園女子大学文学部教授
 堤精二 お茶の水女子大学名誉教授
 益田宗 国立歴史民俗博物館名誉教授
国文学文献資料調査員
 任期 平成10年4月1日～平成11年3月31日
〔北海道・東北地区〕
 加藤幸一 奥羽大学文学部教授
 田中初恵 いわき明星大学人文学部講師
 寺島恒世 山形大学教育学部教授
 中島和歌子 北海道教育大学教育学部札幌校助教
 永田信也 北海道教育大学教育学部旭川校助教
 播摩光寿 國學院短期大学教授
 宮澤照恵 北星学園大学経済学部助教
 山本陽史 山形大学教育学部助教
 吉見孝夫 北海道教育大学教育学部札幌校教授

綿拔豊昭 図書館情報大学図書館情報学部助教
〔関東地区〕
 池澤一郎 明治大学法学部講師
 石井倫子 放送大学非常勤講師
 石神秀美 鶴見大学文学部非常勤講師
 大倉浩 筑波大学文芸・言語学系助教
 丹陽子 東京学芸大学教育学部助教
 佐藤智広 昭和学院短期大学講師
 杉本和寛 東京大学大学院人文社会学系研究科助手
 土屋順子 大妻女子大学短期大学部非常勤講師
 藤田洋治 東京成徳短期大学助教
 湯浅佳子 東京学芸大学教育学部助手
〔中部地区〕
 川村裕子 新潟産業大学人文学部教授
 神作研一 金城学院大学文学部助教
 塩村耕 名古屋大学文学部助教
 島原泰雄 皇學館大学文学部教授
 杉田昌彦 静岡大学教育学部助教
 鈴木孝庸 新潟大学人文学部教授
 高橋明彦 金沢美術工芸大学美術工芸学部助教
 西山秀人 上田女子短期大学助教
 服部直子 名古屋自由学院短期大学非常勤講師
 広部俊也 新潟大学人文学部助教
 深澤真二 和光大学人文学部助教
 堀川貴司 愛知県立大学文学部助教
 柳沢昌紀 中京大学文学部講師
 柳澤良一 金沢学院大学文学部教授
 山本一 金沢大学教育学部教授
 和田道子 中京大学教養部教授
〔近畿地区〕

大高洋司 甲南女子大学文学部教授
 大谷俊太 奈良女子大学文学部助教
 岡本聡 百屋女子短期大学講師
 小林健二 大谷女子大学文学部教授
 小林強 大阪国際女子短期大学非常勤講師
 曾根誠一 花園大学文学部教授
 千本英史 奈良女子大学文学部助教
 中前正志 京都女子大学文学部助教
 原雅子 金園短期大学助教
 三村晃功 光華女子大学文学部教授
 山本和明 相愛女子短期大学助教
 山本登朗 光華女子大学文学部教授
〔中国・四国地区〕
 曾田実 四国大学短期大学部助教
 赤羽淑 ノートルダム清心女子大学文学部教授
 蘆田耕一 鳥根大学文学部教授
 石川一 広島女子大学国際文化学部教授
 稲田秀雄 山口県立大学国際文化学部助教
 大伏春美 徳島文理大学文学部教授
 樹下文隆 広島女子大学国際文化学部助教
 島田大助 安田女子大学文学部非常勤講師
 下田祐輔 徳島文理大学文学部講師
 下房俊一 鳥根大学文学部教授
 杉本好伸 安田女子大学文学部教授
 妹尾好信 広島大学文学部助教
 竹村信治 広島大学教育学部助教
 田中則雄 鳥根大学文学部助教
 広嶋進 ノートルダム清心女子大学文学部助教
 松原一義 鳴門教育大学学校教育学部教授
 森下要治 広島文教女子大学文学部講師

山下 秀樹 岡山大学文学部講師
 余田 充 四国大学文学部教授

〔九州地区〕

池宮 正治 琉球大学文学部教授
 後小路 薫 別府大学文学部助教授
 小川 剛生 熊本大学文学部講師
 檜澤 葉子 九州女子大学文学部助教授
 嘉手苺 千鶴子 沖縄国際大学文学部教授
 櫻井 陽子 熊本大学教育学部助教授
 高橋 昌彦 純真女子短期大学助教授
 西田 耕三 熊本大学文学部教授
 山田 洋嗣 福岡大学人文学部教授

国文学研究情報研究専門員

任期 平成10年4月1日～平成11年3月31日

小川 靖彦 日本女子大学文学部助教授
 刑部 久 秋草学園短期大学助教授
 蒲原 義明 神奈川県立川崎南高等学校校務
 鈴木 豊 文京女子短期大学助教授
 堤 玄太 帝京大学文学部講師
 寺井 正憲 千葉大学教育学部助教授
 宮崎 修多 名城大学文学部助教授
 青柳 隆志 東京成徳短期大学助教授
 池田 三枝子 宇都宮大学国際学部非常勤講師
 佐々木 孝浩 慶応義塾大学附属研究所近道文庫助手
 谷口 孝介 筑波大学文芸・言語学系講師
 鉄野 昌弘 東京女子大学文学部助教授
 福田 豊彦 国立歴史民俗博物館名誉教授
 藤田 洋治 東京成徳短期大学助教授
 山口 明穂 中央大学文学部教授
 湯浅 吉美 成田山仏教研究所嘱託

原本テキストデータベース監修員

任期 平成10年4月1日～平成11年3月31日

磯 水絵 二松学舎大学文学部教授
 市川 浩史 群馬県立女子大学文学部助教授
 大津 雄一 早稲田大学教育学部講師
 小川 剛生 熊本大学文学部講師
 近藤 成一 東京大学史料編纂所助教授
 佐伯 眞一 青山学院大学文学部助教授
 櫻井 陽子 熊本大学教育学部助教授
 高山 有紀 新潟学園女子短期大学講師
 永村 眞 日本女子大学文学部教授
 早川 厚一 名古屋学院大学経済学部教授

共同研究員

任期 平成10年4月1日～平成11年3月31日

課題名 〔中世文芸作品と仏教との関係に關する学際的研究〕

松尾 剛次 山形大学人文学部教授
 末木 文美士 東京大学大学院社会学系研究科教授
 吉村 均 財団法人東方研究会研究員
 米井 輝圭 文化庁文化庁系専任職員
 課題名 〔うつほ物語の基礎的研究〕
 室城 秀之 白百合女子大学文学部教授
 稲員 直子 日本女子大学大学院文学研究科博士課程
 上原 作和 跡見学園女子大学文学部兼任講師
 大井田 晴彦 東京大学大学院人文社会学系研究科博士課程
 佐藤 信一 白百合女子大学文学部助教授
 正道寺 康子 洗足学園魚津短期大学非常勤講師
 中山 陽子 恵泉女子学園短期大学非常勤講師
 宮谷 聡美 白梅学園短期大学非常勤講師

課題名 〔東大図書館所蔵「法勝寺八講巻記」の注釈的研究〕

永村 眞 日本女子大学文学部教授
 楠 淳 龍谷大学短期大学部助教授
 藤丸 要 龍谷大学文学部講師
 林 文子 東京女子大学文学部助教授
 荻輪 顕量 愛知学院大学文学部助教授
 曾根原 理 東北大学文学部助手
 海老名 尚 北海道教育大学教育学部旭川校助教授
 課題名 〔浅井了意全集作成のための基礎的研究〕
 江本 裕 大妻女子大学文学部教授
 花田 富二夫 大妻女子大学短期大学部教授
 富士 昭雄 駒澤大学文学部教授
 渡邊 守邦 実践女子大学文学部教授

第4回シンポジウムコンピュータ国文学

第4回シンポジウムコンピュータ国文学は科学研究費重点領域研究「人文科学とコンピュータ」テキスト班と共同企画。12月3日(木)午後1時より4日(金)午前10時よりの2日間。3日は、当館プロジェクトの中から史料館山田哲好、文献資料部谷川惠一、研究情報部原正一郎・中村康夫が、それぞれ未公開の取り組みについて紹介する。4日の午前はチュートリアルで研究情報部立川美彦の他、東京外国語大学豊島正之、図書館情報大学石塚英弘が講演。午後はテキストデータ各論として青山学院大学近藤泰宏、慶応義塾大学アンドルー・アーマ、大妻女子大学短期大学部花田富二夫の講演と、パネリストスカッション「コンピュータを使ったコラボレーションの可能性と問題点」。パネリストは成田山仏教研究所湯浅吉美、北海道教育大学伊藤一男、図書館情報大学石塚英弘、司会は研究情報部安永尚志。参加自由(無料)。

利用者へのお知らせ

◆マイクロ資料のサービス区分変更について
 本年四月から、次の二機関のマイクロ資料の複写サービスの取り扱いが変更となりました。

・新潟大学附属図書館(佐野文庫)
 これまで新潟大学附属図書館(佐野文庫・文庫番号324)のサービス区分は「A」(ポジフィルム・紙焼写真・電子複写可、事後報告不要)でしたが、「B」(紙焼写真・電子複写可、事後報告必要)に変更となりました。

・住吉大社
 住吉大社(文庫番号ス3)の資料は、「D」(紙焼写真・電子複写の際事前許可が必要)でしたが、「A」(ポジフィルム・紙焼写真・電子複写可、事後報告が必要)に変更となりました。

◆当館指定の貴重書、特別コレクション
 本年三月、新たに次のとおり貴重書二点と、特別コレクション一文庫が加わりました。これにより貴重書は全部で八十八点、特別コレクションは七コレクションとなりました。

〈貴重書〉

・宗廟発句集註(写・一冊・室町期)
 ・梅蕉抄(写・一冊・室町期)
 〈特別コレクション〉

・早歌資料コレクション(外村久江氏旧蔵)(写・九点)

◆来館利用オンラインデータベース検索の利用時間延長について

七月より、来館利用オンラインデータベース検索(マイクロ資料目録データベース、和古書目録データベース)の利用申請受付時間及び利用時間を次のように延長いたしました。なお、繁忙時は、利用指導が十分に行えない場合も想定されますが、あらかじめご了承願います。

申請受付時間
 九時半～十一時半、十三時半～十五時半

利用時間
 九時半～十二時、十三時半～十六時半

◆利用案内
 利用資格
 学術研究のために当館の資料を

必要とし、かつ、次のいずれかに該当する場合
 ・学校の教員及び調査研究機関の研究者
 ・大学の学生及び大学院の学生
 ・その他館長が適当と認める者

閲覧時間
 九時～十七時

資料請求受付時間
 九時半～十二時、十三時～十六時半

文庫複写受付時間
 九時半～十五時半

開室及び休日一覽
 (10.10.1～11.3.31)

○印は休室日
 ■ 閲覧時間
 9:00～17:00

■ 複写受付時間
 9:30～15:30

10							11						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
④	5	6	7	8	9	⑩	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
⑪	12	13	14	15	16	⑬	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
⑯	19	20	21	22	23	⑰	⑱	20	21	22	23	24	25
㉔	26	27	28	29	30	㉔	26	27	28	29	30	31	㉔
12							1						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
⑥	7	8	9	10	11	⑫	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
⑬	14	15	16	17	18	⑮	⑩	11	12	13	14	15	16
⑰	21	22	23	24	25	⑲	17	18	19	20	21	22	23
㉔	26	27	28	29	30	㉔	24	25	26	27	28	29	30
2							3						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
⑦	8	9	10	⑪	12	⑬	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
⑭	15	16	17	18	19	⑰	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
㉔	22	23	24	25	26	㉔	⑱	20	21	22	23	24	25

日曜日、土曜日、祝日、振替休日、毎月末日(日、土の場合)は直前の金曜日、四月末～五月上旬五日間、十二月二十七日～一月五日、三月二十五日～三月三十一日、その他
 来館できない場合の利用方法
 所属大学の図書館等を通して申し込みにより、文献複写及び貸出サービス(資料は限定されず)が受けられます。また、個人が郵送で文献複写の申し込みをすることも可能です。詳細は整理閲覧部情報サービス係(内線四五八)までお問い合わせください。

外部評価委員会(第一次/第二次)要旨

平成七年度から九年度へかけて当館の活動に対する第三者による評価が二次に互って行われた。いずれも、館の現状を分析し、客観的な評価を行い、将来へ向けての指針を策定することを目的として設置された館外の有識者による外部評価委員会を通じてなされた。第一次の委員会のメンバーは諏訪春雄(委員長・学習院大学文学部教授)大岡信(東京芸術大学客員教授)大隈和雄(東京女子大学文学部教授)小島憲之(大阪市立大学名誉教授)後藤祥子(日本女子大学文学部教授)池宮正治(琉球大学法文学部教授)ジャクリーヌ・ビジョー(パリ第7大学教授)ジャン・ジャック・オリガス(フランス国立東洋言語文化研究所教授)の諸氏である。平成八年六月に提出された中間報告で、近代への架橋として第四文献資料室(近代担当)を設置することが最も緊急性が高いとの意見が強調されたが、幸いにも九年度から同室の設置が実現することになったのを受けて、九年三月の最終報告は「第四文献資料室の新設」の問題を中心に今後の館の進路をさぐることを主目標に据えてまとめられた。

第二次の外部評価は、特に当館の有する国文学に関わる学術情報システムを主対象にして実施されたもので、委員会のメンバーは藤原譲(委員長・神奈川大学理学部教授・人工知能研究所長)伊井春樹(大阪大学文学部教授)柴山守(大阪市立大学教授・学術情報総合センター長)杉田繁治(国立民族学博物館教授・企画調整官)根岸正光(学術情報センター教授・研究開発部研究主幹)の諸氏である。本年三月にまとめられた評価報告書には、20年間の活動の評価/学術情報提供の原則に沿って/人文系特有の問題として/新たな学問領域の開拓へ向けて/大学院教育への固有のカリキュラム/国の施策からの重点的支援を/我が国固有の情報発信へ、の諸節に分けてそれぞれ具体的な評価・提言がなされ、我が国固有の情報発信源を形成するための強固な体制を目指し、国文学研究資料館ならではの特色を持った電子資料館構想を打ち立てることが求められている。各委員会の報告書には、審議経過のほか、審議資料とした館の現状に関する諸データが付載されて刊行された。

人事異動(平成10年3月~平成10年8月)

【事務系職員】

発令年月日	氏名	異動内容(教官職)	旧(現)官職
		(転出)	
10. 4. 1	野澤 稔	東京大学教養学部等図書課長	情報サービス室長
〃	関口 照子	東京大学生産技術研究所第二部業務掛長	庶務課専門職員
〃	堀井 英夫	東京大学大型計算機センターシステム管理掛長	会計課情報処理係長
〃	渡邊 将敏	東京大学分子細胞生物学研究所事務部用度掛主任	会計課総務係総務主任
〃	天野 和子	東京大学医科学研究所事務部経理課用度第一掛	会計課用度係
		(転入)	
10. 4. 1	市川 修	情報サービス室長	新潟大学附属図書館情報サービス課長
〃	佐藤 千恵	庶務課専門職員	東京大学生産技術研究所総務課情報普及掛主任
〃	櫻田 芳男	会計課情報処理係長	東京大学大型計算機センターシステム管理掛長
〃	尾迫 雅英	会計課総務係	東京大学教育学部附属高等学校庶務掛
〃	石井 肇雄	会計課用度係	東京大学宇宙線研究所事務部共同利用掛
		(館内異動)	
10. 4. 1	小楡山克則	会計課経理係長	会計課管財係長
〃	添田 勉	会計課管財係長	会計課経理係長
〃	野村 龍	会計課経理係	会計課情報処理係
〃	戸田加代子	情報サービス室参考普及係	情報サービス室情報整備係

人事異動(平成10年3月～平成10年8月)

【教官】

発令年月日	氏名	異動内容(教官職)	旧(現)官職
10. 3. 31	森 安彦	〔停年退職〕 中央大学文学部教授	史料館教授(史料館長)
〃	大西 廣	〔辞職〕 武蔵大学人文学部教授	整理閲覧部教授(整理閲覧部長)
〃	辻本 裕成	南山大学文学部助教授	文献資料部助手
〃	土田 節子	いわき明星大学一般教育講師	整理閲覧部助手
10. 7. 1	丸山 勝巳	〔転出〕 学術情報センターシステム研究系教授	研究情報部教授
10. 4. 1	上野 洋三	〔採用〕 整理閲覧部教授	大阪女子大学学芸学部教授
〃	山下 則子	文献資料部助教授	東京都立芝商業高等学校定時制教諭
〃	田淵句美子	整理閲覧部助教授	大阪国際女子大学人間科学部助教授
〃	久保木秀夫	文献資料部助手	日本大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程
〃	山崎 圭	史料館助手	日本学術振興会特別研究員
〃	野山 嘉正	文献資料部客員教授(10.3.31まで)	(放送大学教授)
〃	野村 精一	研究情報部客員教授(10.3.31まで)	(実践女子大学文学部教授)
〃	永村 眞	史料館客員教授(10.3.31まで)	(日本女子大学文学部教授)
〃	木戸 雄一	文献資料部非常勤研究員(11.3.31まで)	
〃	田中夏陽子	研究情報部非常勤研究員(11.3.31まで)	
〃	藤實久美子	史料館非常勤研究員(11.3.31まで)	
10. 7. 13	ベーター・ パンツァー	文献資料部国際研究室客員教授(11.3.31まで)	ボン大学日本文化研究所教授
10. 8. 1	陳 少峰	外国人研究員客員助教授(11.3.31まで)	北京大学助教授
10. 4. 1	谷川 恵一	〔転入〕 文献資料部教授	高知大学人文学部教授
10. 4. 1	鈴木 淳	〔昇任〕 整理閲覧部教授	文献資料部助教授
〃	安藤 正人	史料館教授	史料館助教授
〃	渡辺 浩一	史料館助教授	史料館助手
10. 4. 1	ロバート・ キャンベル	〔配置換〕 文献資料部助教授	整理閲覧部助教授
10. 4. 1	上野 洋三	-〔併任等〕 整理閲覧部長	(整理閲覧部教授)
〃	高木 俊輔	史料館長	(史料館教授)
〃	山下 則子	文献資料部第三文献資料室長	(文献資料部助教授)
〃	谷川 恵一	〃 第四文献資料室長	(文献資料部教授)
〃	鈴木 淳	整理閲覧部参考室長	(整理閲覧部教授)
〃	鈴江 英一	史料館第一史料室長	(史料館教授)
〃	丑木 幸男	〃 第二史料室長	(史料館教授)
〃	安藤 正人	〃 第三史料室長	(史料館教授)
〃	高木 俊輔	〃 史料管理研究室長	(史料館教授)
〃	田中 則雄	文献資料部助教授(10.9.31まで)	(鳥根大学法文学部助教授)
〃	伊藤 一男	研究情報部助教授(11.3.31まで)	(北海道教育大学教育学部旭川校助教授)
〃	藏持 重裕	史料館助教授(11.3.31まで)	(滋賀大学教育学部助教授)
10. 7. 1	丸山 勝巳	研究情報部教授(11.3.31まで)	(学術情報センターシステム研究系教授)
〃	立川 美彦	研究情報部情報メディア室長	(研究情報部教授)

平成10年度

秋季学会

①事務局 ②学会開催日 ③会場

歌舞伎学会

①〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内 03-3203-4141内71-5218 ②12月12・13日 ③共立女子大学

劇点語学会

①〒155-0032 世田谷区代沢1-20-10 FAX03-3487-4891 ②10月16日 ③九州大学

芸能史研究会

①〒602-0855 京都市上京区河原町通荒神口下る上生州町221 キトウビル303号 075-251-2371 ②12月5日 ③早稲田大学

計量国語学会

①〒167-0021 杉並区善福寺2 東京女子大学三号館3118号室内 03-3395-1211内2339 ②9月26日 ③国立国語研究所

国語学会

①〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内 03-3812-2111 ①事務取扱 〒113-0033文京区本郷1-13-7 日吉ハイツ404 03-5802-0615 ②10月17・18日 ③九州大学

上代文学会

①〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 成蹊大学文学部遠藤宏研究室内 0422-37-3647 ②11月14・15日 ③立正大学・日本大学昭和文学会

①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-5 笠間書院内 03-3295-1331

②11月7・8日 ③奈良大学

説話文学会

①〒305-0006 つくば市天王台1-1-1 筑波大学文芸言語学系稲垣研究室 0298-53-4136 ②9月26日

③実践女子大学

全国大学国語教育学会

①〒739-8523 東広島市鏡山1-1-2 広島大学教育学部国語教育学研究室内 0824-24-6790 ②10月17・18日 ③熊本大学

全国大学国語国文学会

①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-6 畑山第1ビル(株)おうふう気付 03-3294-0857 ②10月17・18日 ③中京大学

中古文学会

①〒175-8571 板橋区高島平1-9-1 大東文化大学文学部日本文学研究室内 03-3935-1113内3128 ②10月3・4日 ③相山女学園大学

中世文学会

①〒102-8336 千代田区三番町6-16 二松学舎大学大学院文学研究科国文学専攻松本寧至研究室 03-3261-7406 ②10月24~26日 ③愛知淑徳大学

日本演劇学会

①〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 玉川大学文学部芸術学科演劇研究室内 FAX0427-39-8092 ②10月24・25日 ③能勢町立浄瑠璃シアター

日本音声学会

①〒101-0064 千代田区神田猿楽町1-3-1 03-3292-1718 ②9月26・27日 ③中央大学

日本歌謡学会

①〒150-0011 渋谷区東4-10-28 國學院大學文学部日本文学第七研究室内 03-5466-0221 ②11月7~9日 ③岐阜県大垣市

日本近世文学会

①〒191-8510 日野市大坂上4-1-1 実践女子大学文学部国文学科研究室内 0425-85-0316 ②10月31日・11月1日 ③広島大学

日本近代文学会

①〒259-1292 平塚市北金目1117 東海大学文学部日本文学科第二研究室内 0463-58-1211 ②10月

17・18日 ③昭和女子大学
社団法人 日本語教育学会

①〒101-0065 千代田区西神田2-4-1 東方学会新館2F 03-3262-4291 ②10月3・4日 ③北海道大学

日本児童文学学会

①〒565-0826 吹田市千里万博公園10-6 大阪国際児童文学館内 06-876-8800 ②10月24・25日

③鳴門教育大学

日本文学協会

①〒170-0005 豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②11月7・8日

③白百合女子大学

日本文学風土学会

①〒359-1112 所沢市泉町1789 秋草学園短期大学国文科研究室 0429-25-1111 ②11月14日 ③専修大学

日本文体論学会

①〒110-0004 台東区下谷1-5-34 (株)三修社内 03-3842-1711 ②11月20・21日 ③英知大学

日本方言研究会

①〒192-0397 八王子市南大沢1-1 東京都立大学国語研究室内 日本方言研究会幹事 0426-77-2135

①〒115-8620 北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事 03-5993-7630 ②10月16日 ③九州大学

俳文学会

①〒162-8644 新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部雲英末雄研究室内 03-5286-3712 ②10月17~19日 ③神戸親和女子大学

萬葉学会

①〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学文学部国語・国文学研究室内 06-605-2413 ②10月24・25日 ③奈良女子大学

和歌文学会

①〒112-0001 文京区白山5-28-20 東洋大学国文学研究室内 03-3945-7367 ②10月17日~19日 ③東洋大学

和漢比較文学会

①〒162-8644 新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部田中隆昭研究室内 03-5286-3706 ②10月24~26日 ③福岡女子大学

印刷 株式会社三協社

FAX(三七八五)七〇五一

電話(三七八五)七一一一

郵便番号一四二八五八五

東京都品川区豊町一六一〇

国文学研究資料館

編集・発行者

平成十年九月発行

国文学研究資料館報 第五一号